

[参考事項]

新技術名：ニホンナシ「秋泉」の収穫始期は満開40日後までの日平均気温から予測できる
(平成20~26年)

研究機関名 果樹試験場総務企画室天王分場班
担当者 菅原哲平・長澤正士・高橋 功

[要約] 果樹試験場天王分場における過去7か年の「秋泉」の収穫始期は、満開40日後までの日平均気温の積算と相関が高い。そのため、この期間の気温との単回帰式により収穫始期を予測することができる。

[対象範囲]

県内ニホンナシ生産者、普及指導員、JA営農指導員

[ねらい]

秋田県オリジナルのニホンナシ「秋泉」は、成熟期の果皮色の変化が少ないため、収穫適期の判断が難しい。そこで、生産者へ当年の収穫目安となる情報を提供するため、大谷（2006）によるニホンナシの収穫期予測を基に、果樹試験場天王分場（以下、天王分場）における過去7か年のデータを活用し、収穫予測式を作成する。

[技術の内容・特徴]

1. 満開日から満開25~60日後までの日平均気温の積算（以下、積算気温）と収穫始期までの日数との相関係数は、満開40日後までの積算気温の場合に最も高い（図1）。
2. 満開日から満開40日後までの積算気温と収穫始期までの日数には、 $r=-0.9486$ （0.01%水準で有意）の負の相関があり、回帰式 $Y=-0.1759X+269.2474$ （Yは満開日から収穫始期までの日数、Xは満開日から満開40日後までの積算気温）が得られる（図2）。

[成果の活用上の留意点]

本成果は、砂丘未熟土に植栽された「秋泉」／マメナシを供試して得られた成果である。そのため、県内の他の地域ではこの予測式から天王分場で得られた収穫始期を参考に推定する。

[具体的なデータ等]

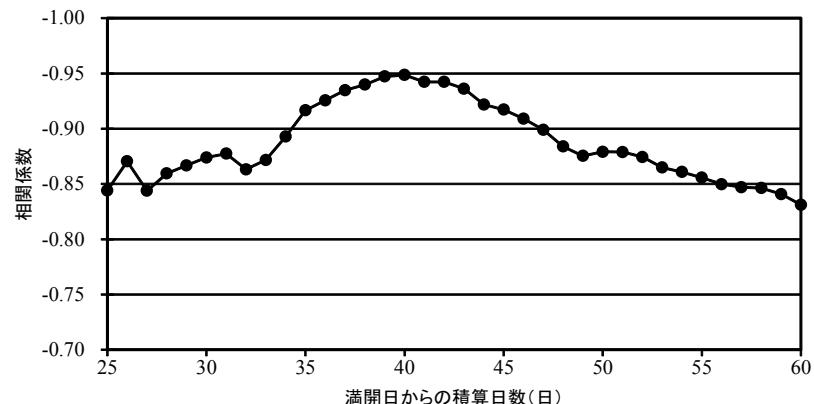


図1 満開日からの積算気温と収穫始期までの日数との相関係数 (2008~2014年、天王分場)

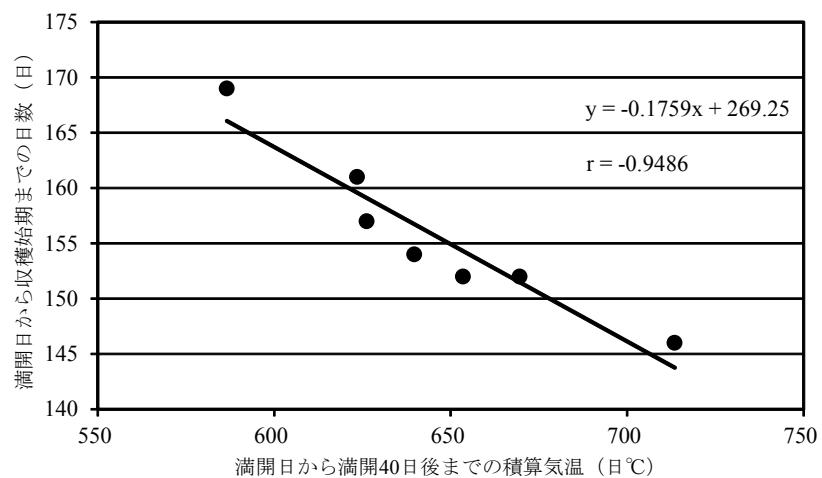


図2 満開日から満開40日後までの積算気温と収穫始期までの日数との関係
(2008~2014年、天王分場)

[発表論文等]
なし